

日本語の文献からも抄録されています。たとえば抄録番号19703は「Uranium content in natural water. Doi, K.; Aoyama, Y. (Power Reactor and Nuclear Fuel Development Corp., Tokyo (Japan)). Kozan Chishitsu; No. 5, 35—45 (1973). (in Japanese) でこの抄録文の場合は原著者のアブストラクトそのものの転載ですがすべて転載の抄録文ばかりというわけではありません。

11) **Ceramic Abstracts**: American Ceramic Society 発行: 月刊(ただし合併号が多い): 28×21cm, 各冊 50p. 前後(英文)(第6図)

世界のセラミックス領域の主要論文(学術雑誌だけでなく単行本も含めて)を抄録した抄録雑誌。抄録者はI. A. Aksayら54人でそのメンバーの中には岸井徹曾宮茂行(音訳)という2人の日本人が含まれています。抄録分類は1976年の第55巻第1—2号でみると研磨材など16項目と単行本の計17項目に区分され原著論文に付された要約にこだわらず抄録し直すことを原則にしてまとめられています。抄録文の語数は440語から0まですなわち文献題目 著者 雑誌名・巻号・頁だけのものまでさまざまです。原著の使用語が紹介してないのは一つの欠点といえましょう。各論文の標題がすべて英訳してあるので原著がすべて英文と誤解されるのではないかと思います。なお各項目ごとに当該分野での特許事項がまとめてあるのは親切な取扱いといえましょう。

12) **Bibliography and Index of Geology**: The Geological Society of America 発行: 月刊: 23×15cm, 各冊 250p. 前後(英文)(第7図)

この抄録誌は閲覧室の横に並んでいて馴じみ深いかと思えます。全世界の地球科学関係の文献を年間30,000編ほど抄録しているという抄録文献の多さや各冊にそれぞれ索引が付されているという使いやすさの点で世界の抄録雑誌の中ではすぐれたものの一つです。しか

し索引を除いて年間1,650p.程度に30,000編の論文抄録さらに版がA5に近いので抄録語数がきわめて少なくても2行前後にすぎず原論文名の英翻字と英訳雑誌名と巻号・頁 原著使用語 図・表の数だけ記されている場合が多いのは物足りなさを感じます。

13) **Bibliography and Subject Index of South African Geology**: Geological Survey of South Africa: 年刊: 21×15cm, 160p.前後(英文)(第7図)

これは南ア共和国の地質学者が発表した論文を1年間分まとめて抄録したもので取扱い対象地域が南アフリカに限っているわけではありません。版が小さいとはいえ抄録語数は0.5—1.5p.を占めるほど多くしたがって抄録論文数は260編前後にすぎません。面白いのは抄録の集め方ですべて原著者が自分で抄録して呈出したものばかりです。原著者が抄録を呈出しない場合は論文の標題などが記されているだけでその数も260編の中で決して少なくありません。原著の発表年からすると2年前後のズレがあるようです。索引は対象索引だけですから少し使い難いように思われます。

14) **Annotated Bibliography and Index of the Geology of Zambia**: Geological Survey of Zambia 発行: 隔年刊: 40p. 前後 25×18p. (英文)(第7図)

この抄録誌はザンビアを中心にその隣接地方を含めてその地質を対象にした地球科学的な研究論文を集め抄録したもので抄録論文数は90—100抄録語数は最大600語とかなり詳しく採録されています。しかし利用雑誌はEconomic Geologyなどアメリカ・フランス・イギリス・北欧とザンビアの計22種にすぎずとてもザンビアとその近隣の地質・鉱床に関する文献を網羅しているとはいえません。それでもこのような地域別抄録は役に立つものと思われます。索引が項目別だけでなく地区別にもまとめられているのは前述の南アの場合よりも便利です。(つづく)

～地質調査所の出版物～

・地質調査所月報 第27巻 第4号  
報 文

寺島 滋: けい光X線分析法による岩石中の塩素およびイオウの定量  
大森江い・大森貞子: 岩石および鉱物中の主成分のけい光X線分析法—第1法—ガラス円板作成について  
丹治耕吉・金谷 弘: 半導体検出器を用いた蛍光X線分析法の検討(その1) 分解能による検出エネルギースペクトルの変化

太田良平・神谷雅晴ほか1名: 阿蘇火山岩石の<sup>14</sup>C年代—日本の地熱活動に関連する第四紀層の<sup>14</sup>C年代 II—

概 報

磯部一洋: 福井県小浜湾の底質分布と堆積環境について

資 料

モンゴルのカンブリア系糜攢土(岸本文男訳)  
新着資料の紹介(資料室)